

府連版 NO. 485

543-0014 天王寺区玉造元町6-9
日本ベトナム友好協会大阪府連合会
TEL&FAX=06-6768-4868
URL=<http://nhatvietosaka.jp>



日本ベトナム友好協会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-17-10
電話03-3945-8543 FAX 03-3945-9072

Eメール nihon-vietnam@cream.plala.or.jp

振替 00110-0-34498

定価 500円（協力会費）



『メコン川のピーナツ売り』

堂本泰郎氏 作

《当面の行事》

5月16日（日） 第66回全国総会（ZOOM会議）

6月4日（金） 6月度拡大常任理事会（ZOOM会議）

ベトナム総領事

表敬訪問

＝グエン・ホン・ハー新総領事と親しく懇談＝

在大阪ベトナム社会主義共和国総領事として、グエン・ホン・ハーさんが新しく着任されましたので、4月9日に表敬訪問を行いました。訪問したのは大阪府連、兵庫県連・京都支部・奈良支部の代表です。兵庫県連合会山根理事長、京都支部鈴木常任理事、奈良支部井ノ尾代表、大阪からは梅田会長、桃木理事長、中峯副理事長、尼子副理事長、今西副理事長、山本事務局長、古崎常任理事が参加しました。

梅田会長から先日総会に来て頂いたお礼と歓迎の挨拶がなされ、続いて各府県の代表より友好協会の活動内容と今後の目標などについて報告がありました。



グエン・ホン・ハー総領事より、本日は4府県の友好協会のみなさんが来て頂きとても嬉しい、ベトナム解放の戦いの時からドイモイの時期、そして発展の時期と友好協会の日頃のベトナム人への支援について謝辞が述べられました。また、日本にベトナム人は43万人いる、中国に次いで2番目で韓国を抜いた、23万人が実習生で8万人が学生、日本とは広範な戦略的パートナーシップなので、ますます増えるのは間違いない、今はコロナで困っている、



仕事が見つけられない人も多い、勉強が終わっているのに帰国できない、特別なフライトで2万人帰国させたが、希望者には応えられていない、法律に違反する人もでて、困っているベトナム人に力を貸してほしいとも訴えられました。

参加者の自己紹介を熱心に聞きながらメモを取っておられた総領事はそれを受ける形で簡単に触れられました。

兵庫の山根さんが「ベトナム語の親子教室」を話題としたことに関してベトナム政府の考えは海外のベトナム人がその地の文化を理解することも大事でベトナムの文化を理解することも大事、兵庫県連の支援は大事で高い評価をしていると回答されました。



京都の鈴木さんが触れた「枯葉剤問題」について、ベトナム戦争が1975年に終了したが枯葉剤の影響を受けているのがつらい、アメリカ政府や個人からも支援

いただいているがまだ解決できていない、環境問題、子どもに影響が出る



のに支援いただきたい、今後ホーチミン市人民委員会と交流する際には総領事館に連絡してほしい、協力できると話されました。

奈良の井ノ尾さんが「議員連盟を紹介し奈良県の案内をした」ことに、奈良県には家族も招待を受けたので行きたい、それぞれの地方に行く時に連絡してほしい、挨拶回りもしなければならない、たくさんの地方を回りやるべきことがわかるのでがんばりたいと積極的な姿勢を示されていました。

大阪府連は長い間さまざまなことをやってこられた、大阪のサッカーチームにベトナム人のゴールキーパー

ダン・バン・ラムがやってきた。これから発展していく、ゴールキーパーは初めてだ、日本のレベルが高いのでスポーツの交流が盛んになる証拠だ、大阪にベトナムレストランの人气があって店を広げるとい話を聞いてい



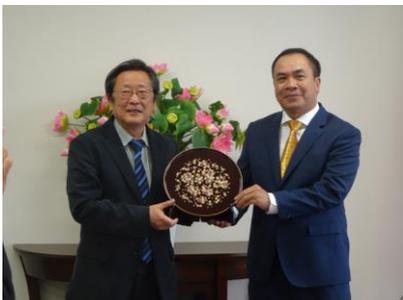
る。「愛する前に胃から」ということわざがある、人間関係で食事は意味がある、コロナが収束したら招待して



料理を提供したい。府連に弁護士がいるので実習生のこと法律上の手続きがむづかしいが頼んだら費用が

掛かる、協会にお願いしたい、改めてベトナムへの支援に感謝します。これからもベトナムと日本の友好関係が深まるように協力していきましょうというお話がありました。

大阪の古崎さんから、教え子の実習生が仙台にいるが、生活に困ったという連絡を受けて、社会福祉協議会から小口資金として20万円もらえた、そういう方法もあることを伝えてほしい、領事館のビザ発行の受付に日本人がいればいいという要望に対して、総領事はウェブサイトにも日本版を作る予定で6月にはできることになっていると回答していました。



恒例のプレゼントの交換、記念撮影と進み、終始和やかなムードの中で表敬訪問は終了しました。

(報告 今西保雄)

=梅田会長へ
記念品=
=「白鶴」を
総領事へ=

=全員で
記念撮影=



※ ベトナム戦争・枯葉剤について4月30日の解放記念日のベトナムの声放送では興味深い記事が配信されていました。紹介します(編集部)

越米関係の 重要な一部・

戦争後遺症の克服

(VOVWORLD) -1975年4月30日、ベトナム南部完全解放を目指すホーチミン作戦の勝利で、アメリカ史上で最も長い戦争とされていた「ベトナム戦争」が終結しました。あの日から46年経った現在、ベトナムとアメリカとの関係には多くの成果が見られます。



アメリカのダニエル・クリステンブリンク元大使がチュオンソン共同墓地を訪れる
(写真提供:アメリカ国務省)

これらの成果に至るまでには両国が対立を解決し、信頼を醸成し、建設的精神で戦争後遺症を解決するため力を合わせることに努力してきたことによる賜物です。

1995年にベトナムとアメリカとの関係が正常化されてから、戦争後遺症の克服は両国関係における重要な一部となってきました。双方は戦争後遺症と人道的義務を責任感を持って解決するように協力することを公約しており、これを両国関係を強化する原動力としています。

残酷な戦争の後遺症

あの戦争が終結してから46年経ちましたが、戦争後遺症はベトナムの復員軍人を始め、一般民間人の身体や離散家族、汚染された土壌などに見ることができます。戦後生き残った多くの人々は経済、環境、社会などの面において、戦争が引き起こした多くの問題に直面しています。また、ベトナムだけでなく、アメリカと同盟諸国

もこの戦争により、甚大な人的物的被害を受けました。多くのアメリカ帰還兵は帰国後も精神疾患に苦しんでいます。

責任感を持って、人道的義務を果たすため協力

ベトナムとアメリカは関係正常化した直後、戦争後遺症の克服に着手してきました。2006年、双方はベトナムにおける枯葉剤被害問題解決に関する健康行動計画と環境処理に関する覚書に調印しました。これは両国関係に残された複雑な問題の解決に重要な節目を記すものとなってきました。

2012年、アメリカ国際開発庁はベトナム国防省と協力して、ダナン空港のダイオキシン汚染除去プロジェクトを実施してきました。このプロジェクトの完了後、双方は引き続き協力して、南部ビエンホア空港のダイオキシン汚染土壌除去プロジェクトを展開するため、合意書を締結しました。

2020年、アメリカはベトナムの8つの地方で展開される身体障害者支援プロジェクトに6500万ドルの支援を公約しました。ベトナム駐在アメリカのダニエル・クリステンブリンク元大使は次のように語りました。

「両国における優先課題の一つは人道的問題と戦争後遺症の解決のため協力するということです。現在の両国関係は主に未来志向とされていますが、私たちは過去において残されてきた問題を引き続き解決してゆく責任があります。両国はダイオキシン汚染除去に努力しています。また、アメリカは戦争中、枯葉剤が散布された8つの地方に住んでいる身体障害者を治療しています。その他、両国は戦争中の行方不明者の捜索に全力を尽くしています」

このおよそ10年、アメリカはベトナムでの戦争後遺症の克服に多額を支援してきました。逆に、ベトナムは戦争中行方不明になった米兵の捜索でアメリカと協力しています。国防省のグエン・チー・ビン次官は次のように語りました。

「アメリカは戦争中行方不明になった米兵の捜索に対するベトナムの協力を高く評価しています。これは私たちの責任であり、人道性を示すと共にアメリカとの信頼醸成に役立ちます」

両国が協力関係でこれまでに達成した成果は互いにかつての敵から友人になったという和解プロセスの模範となるだけでなく、現在の地域と国際衝突の解決策となることでしょう。

【事務局だより】

○4月から事務局当番を週1回（毎金曜日）の午後2:00からということにしています。携帯電話への転送を始めました。また、日刊紙の購読をやめました。したがって郵便物は週に1回の受け取りになりました。当番の交通費の節約と、新聞購読料の支出が減ったりしました。

○4月の1か月で、転送電話は5件程度ありました。中でも市民からの要望で、「60歳になって、時間ができたのでベトナム人を応援したいので何か活動することはないか?」、また東京の会員から「来年はいよいよ国交回復50周年の準備をしなくてははいけないとおもうが、府連としては何か考えていますか?」というほか事務的な連絡がありました。あとはFAXが20数件ありましたが、大半が自動的に送られてくる宣伝のFAXのようでした。転送の場合FAXは受けられません。

○コロナ禍の中、フン王の行事はなかったようです。

○解放記念の講演会「ベトナムと日本の生活習慣の違い」を取り組んでいましたが、中止にしました。ベトナム人の学生などに「日本に来て困ったことや文化習慣の違いについて感じたことを3分間スピーチしてもらおう」と日本語学校を訪問しましたが、多くの学生が帰国していたり、入国できていなかったりで実現できませんでしたが、YMCAからは発表の申し込みをいただきました。コロナが落ち着けば実施したいと思います。

○5月16日の全国総会がWEBで実施することになり、府連事務所内をそれに対応できるように準備しました。

○5月1日までの会費は吉田隆紀、子延優子、初田紀夫、伊東節郎、城本洋三（敬称略）のかたがたからの入金がありました。〇〇〇〇は、総合口座への振り込みで、氏名が不明となっています。会費振り込みの際は氏名を明確にお願いします。（山本）

《これまで》

4月9日（金） 総領事館表敬訪問（10名）

28日（水） 朝来市会員訪問（城本、山本、伊東）

29日（木） 解放記念講演会中止、ベトナム語会議

5月7日（金） 5月度拡大常任理事会（ZOOM、6名）

《これから》

5月16日（土） 全国総会（ZOOMで実施）

6月4日（金） 6月度拡大常任理事会（ZOOMで実施）

※ 橋本敦氏が顧問就任を辞退されました。

※ 古崎さんから、部落問題研究所が発行している「人権と部落問題」5月号にベトナムの少数民族についての報告を載せているとの連絡がありました。その原稿を送ってもらって若干手を加えて紹介します(編集部)。



マイノリティの 在り方を考える

—ベトナム「少数民族」政策を通して(報告)—
古崎 勉 (ベトナム在住5年)

1、はじめに

①「少数民族(マイノリティ)」はヨーロッパを含め世界各地に分布しており、今日なお、諸民族間の対立とともに、一国内で多数派民族による少数民族への圧迫や抑圧が絶えない。

日本の少数民族ではアイヌが知られているが、私が5年間住んだベトナムの少数民族をみてみよう。

ベトナムの少数民族は53種族で、主要民族であるキン族(いわゆるベトナム人)が総人口9600万人の86%であるのにたいして、少数民族は合計で14%を占めている。

ベトナムの少数民族の居住地は、「北部」山岳地帯と「中部高原」に大別される。

②東南アジア諸国は、歴史的にみてインド文化の影響が色濃いとされているが、ベトナムだけは中国の影響が強く“漢字文化圏”であった。過去、ベトナム中部の都市フエに首都が置かれ、大学も設置されたことがあり、官吏や知識人が漢字を使用していた。

有名なホー・チ・ミン(胡志明)や、日本への留学運動である「東游運動」の提唱者=ファン・ボイ・チャウ、ファン・チュー・チンらも漢字を操った。

③しかし1900年前後、フランスがベトナムの植民地化をすすめるなかで、難解な漢字をやめて、アルファベットを使用したベトナム文字(チュノム)を使用してから

識字率が向上、そしてフランス風の声調記号も加わり、現在のベトナム文字になっている。

現在、ベトナムでは日常生活で漢字は使用されていないが、ベトナム語の大半は漢字発音が元になっているから、ベトナム人の氏名の大半を漢字で表すことが可能。たとえば、ベトナムで最多の苗字である「グエン」(NGUYEN)は「阮」、ベトナムの国名は「越南」で、古代に中国南部に存在した「越国」の南方にある地域という意味である。

私が日本語を教えている学生の氏名を漢字で書くと、みんな大へん喜ぶ。なお最近、学生から教えてもらったわかったことだが、中部高原に多い少数民族「エデ族」の言語はベトナム語とは異なるが、元々、文字をもたない民族だったから現在、表記はベトナム語のチュノムを使用している。

2、「北部」の少数民族

「北部」の少数民族は「タイ族」「モン族」「ムオン族」



「ラオ族」などで、中国南部の雲南省や貴州省、広西チワン族自治区、ラオスやタイと共通する種族が多い。中国やラオス国境に近い山岳部に住み、同族が国境を超えて分布、国境を越えて交流・通商している。

彼らは主要産業がないため生活は豊かではなく、有名な中国国境に近いサパやバック・ハーの市場では、少数民族が自分達で織った民族固有の織物や野菜を売りに来て、物々交換的に生活必需品を買い求めていく状態で、今も低所得者が多く、未就学児もいる。

20年ほど前、私が日越友好協会のツアーで「北部」少数民族を訪問したことがあるが、中国国境に近い村まで行ったとき、おばあさんが「日本人を見るのは50年ぶり」といつていた。その意味は、第二次大戦時に駐屯



してきた日本兵以来だというのだ。

3、「中部」の少数民族

「中部」高原には「エデ族」「ムノン族」「ヌン族」「バナール族」「ラグライ族」など数種類の少数民族が住んでおり、マレー・ポリネシア語族に属する種族が多い。

彼らは現在、キン族（ベトナム人）と同じ服装をして、同じベトナム語を話す、自宅に帰ると家族間で少数民族の言葉で会話し、民族衣装を着る。

「北部」の少数民族と違って、「中部」高原の少数民族は比較的裕福である。「中部」高原はコーヒーの一大産地で、彼らはコーヒーや胡椒（こしょう）の栽培を主要産業としており、販売・輸出も順調で平均収入も少ない。だから、子どもに日本語を勉強させて、日本とは相当な貨幣価値の差があるのに、250万円の預金証明や日本への留学資金も準備できるのには感心する。私が赴任した当初、学生はキン族が大半だったが、最近では少数民族の学生が半分近い。

ある時、私は教えている少数民族学生に招待されて、彼の家で夕食をごちそうになったが、政府の方針で、外国人が少数民族の家を訪問するのは良いが、宿泊することは禁じられており、ベトナム政府が少数民族の動向に敏感なのがよくわかった。

私が居たバンメトート市を含むダクラク省では、肌の色が浅黒い「エデ族」が最も多く、その他に「ムノン」「ヌン」「バナール」「ラグライ」族などがいる。

私が教えていた日本語学校生の多くはキン族（ベトナム人）だが、少数民族の学生も机を並べて仲良く勉強していた。

またダクラク省の北隣ザライ省も少数民族の居住地であり、ザライ族が多数住んでいる。

私が興味深いのは、次の「エデ」族の民族伝承である。「二千年前に、火山の噴火で元の地域に住めなくなり（海を渡って）ベトナムにやってきた。しかし、沿岸部にはベトナム人（キン族）が住んでいたもので、奥地（中部高原）に定住した“というものである。これを私が類推するに、火山噴火が多発するインドネシア諸島からやってきた可能性が高い。

4、「中部」少数民族の変遷

①1955年以降、ゴ・ジン・ジェムらベトナム共和国（南ベトナム）は中部高原の少数民族に対して強制的な「同化政策」を取り、ベトナム戦争期は「戦略村」をつくり「囲い込み」をした。これに中部高原の少数民族が強く

反発、「ザライ族」らが武装蜂起をしている（1960年）。南政府が徹底的に弾圧したので、ついに1964年に反政府組織「フルロ」が米CIAの肝いりで結成された（最大時勢力3万人、1992年に解散）。

南政府軍の将校はキン族で、少数民族兵と仲が悪く衝突が絶えないため、アメリカは少数民族兵を偵察が主任務の米軍特殊部隊の指揮下に置き、作戦行動は南政府軍と共同とした。それでもベトナム戦争中、解放側と闘うはずの南政府軍基地内で少数民族兵の逃亡や反乱、キン族将校襲撃事件が多発した。

このように、アメリカと南政府が少数民族にたいして「差別」と「分断」政策をとると対照的に、解放勢力側は少数民族の自治権を認めていたので、解放側に参加する少数民族も少なくなかった。

②だが、解放統一後の“社会主義ベトナム”は少数民族の自治を認めず、彼らが多く住む「中部」高原に「新経済区」を設置、西側の経済封鎖で疲弊していた北部の紅河デルタの農民を大量に“入植”させ、先住の少数民族と軋轢を生んだ。

日本では余り知られていないが、こうして出来た政府と少数民族との“隙間”を利用して、米CIAの残党が「フルロ」らを煽動・画策した“反乱未遂事件”が80年代中頃に政府によって摘発されている（これに日本人も加担したという説あり）。

③以降、ベトナム政府は少数民族をキン族と同等に取り



扱い、「融和・共存」政策を取っている。現在では行政、軍、警察などあらゆる各級組織で

“長がキン族なら副は少数民族”と、バランスに配慮した政策を今日まで続けており、両民族間の紛争や紛糾は聞かない。

これらは、多数派民族の少数民族にたいする対応の“成功例”のひとつと見ることができるのではないだろうか。



※ ベトナムの声放送の国際版で、5月5日に少数民族に関わる報道がありました。古崎さんの文章とも関係がありますが、現在のベトナム政府の姿勢が伝わってきます。紹介します（編集部）

国会への参加に 少数民族出身者 の便宜を図る

2021年5月5日

(VOVWORLD) -来る5月23日、第15期国会議員選挙と2021年～2026年期の各レベル人民評議会議員選挙が行われます。

少数民族出身である第15期国会の候補者数と質を確保するため、関連各機関は、立候補過程や選挙運動における少数民族出身の候補者に有利な条件を作り出してきました。

少数民族の国会議員数を確保する

第15期国会は、少数民族議員の割合を18%にするという目標を設定しています。過去の国会議員選挙の結果をみますと、第1期国会には、少数民族の議員が34人いました。この数は国会の各会期で増加しています。例えば、第2期国会には56人、第3期国会には60人、そして第14期国会には86人に上っています。また、第1期国会から第14期国会まで、総数53少数民族の内、49の民族出身の国会議員がいました。

各民族間の平等を確保するため、第15期国会選挙における少数民族出身国会議員の割合は、引き続き配慮されています。さらに、これまで国会議員がいなかったオドウ(O Du)族、ロمام (Ro Mam) 族、ル(Lu)族、ガイ(Ngai)族という人口が少ない4つの少数民族の代表を盛り込む目標も設定されています。

国会の人民評議会のクアン・バン・フォン副会長は次のような意見を述べています。

「ベトナムに共存する54民族の内、53の少数民族の数は全国人口の15%を占めています。少数民族出身で

ある第15期国会議員の割合が18%に達するという目標は、各民族間の平等確保を目指す党と国家の関心を示すことです。」

国会議員の質的向上にも重視

道徳と才能を兼ね備えた少数民族出身の国家議員を選出することは、党と国家の民族政策の立案と履行に貢献するでしょう。民族評議会のグエン・ラム・タン副委員長によりますと、国会議員の質を向上させるためには、候補者が自らの行動を示すと同時に、有権者の信頼を得るように、有利な環境を作り出す必要があるということです。ちなみに、去る4月に、中部ダナン市で、国会の民族評議会は、第15期国会と省レベル人民評議会に初出馬する少数民族出身の候補者を対象に、選挙運動に関するスキル訓練会議を行いました。この会議には中部高原地帯ティグエン地方と南部の各省、市からの少数民族出身の候補者らが参加しました。今回の第15期国会議員の選定について、民族委員会のホアン・ティ・ハイン副委員長は次のように語っています。



「国会議員選出にあたり少数民族コミュニティから信頼されている人物を選ぶことは極めて重要なことで

です。次は、これらの国会議員が自らの考え方や行動などを示すために、有利な環境を作り出すことも必要だと思います。」

少数民族出身の国会議員は、それぞれの民族、それぞれの地方だけでなく、全国の有権者を代表します。彼らはまた、民族政策の作成と履行に参加するだけでなく、国の重要な問題の決定に参加することもできます。このことは、実情に相応しい政策の作成に貢献し、それぞれの地方を初めとする全国の経済社会発展に原動力を作り出すとされています。

CỘNG ĐỒNG CÁC DÂN TỘC VIỆT NAM



60 NĂM THÀNH LẬP
NƯỚC CHXHCN VIỆT NAM
(2/9/1945 - 2/9/2005)



NƯỚC VIỆT NAM LÀ MỘT
DÂN TỘC VIỆT NAM LÀ MỘT
Lời của Chủ tịch
Hồ Chí Minh

HOA SỸ THIẾT KẾ: NGUYỄN THỊ SÂM - V. P.TANH - P.T.CHIÊM - N.A.CƠ - N.DU - V.B.DUNG - Đ.V.ĐỨC - L.S.HẢI - T.T.HIẾN - V.K.LIÊN - N.T.LIÊN - H.T.LIÊU - V.L.NHI - T.Q.THỰ - B.T.TOÀN - T.M.TRANG - Đ.L.TUẤN - T.L.TUẤN - L.A.TU - T.TUYẾN - T.T.VINH - Đ.M.VŨ